

1992.3  
第9号

# 博物館だより

大津市歴史博物館

春の企画展

## 「湖都の彩り」を開催

4月10日～5月17日

大津市歴史博物館では、平成四年四月十日から「春の企画展 湖都の彩り―館蔵・寄託の名品」を開催します。本展は、昭和六〇年から本日まで収集してまいりました収蔵品のうち、彫刻・絵画・工芸品等を中心に重要文化財・市指定文化財を含む約一二二点の展示資料で紹介するものです。どうぞ、御期待下さい。



近江名所図

大津で育まれてきた文化は、さまざまな様相に彩られています。大津は、風光明媚なことで今日も知られています。その自然の美しさが殊に注目されるようになったのは、都が平安京に遷った平安時代からです。京近郊の景勝地として都人たちに親しまれ、十世紀頃には、近江の名所が屏風にも描かれるようになりました。中世末頃から近世になると、中国の名勝、瀟湘八景になぞらえた近江八景が成立し、これを題材にした作品が制作されています。

また、大津には、石山寺・延暦寺・園城寺などの大寺院をはじめとする数多くの寺院の覚群がみられます。まさに奈良と並ぶ日本仏教史の中心地ともいえる位置を占めているといってもいいでしょう。ここに開花した仏教文化は脈々と人々の生活に今も息づいています。さらに、大津は江戸時代に東海道の宿場として活況を呈し、豊かな暮らしに育まれた文雅を愛する気風は、数多くの絵画や工芸品を生み出す土壌となりました。

今回の展覧会では、こうした大津の豊かな風光が育んだ文化と仏教史の中心地として培われた文化、近世の人々の暮らしを飾った絵画・工芸品の三点にスポットをあて、重要文化財一点と市指定文化財三点を含む一二二点の館蔵・寄託品で紹介します。

なお、会期中に当館講堂において展覧会に関係した講演会・展示品解説を開催する予定をしております。講演会「描かれた日吉山王祭」大手前女子大学教授・武田恒夫先生が四月二十五日(土)、展示品解説「館蔵・寄託の美術工芸品」本館学芸員・山崎和宏が五月二日(土)にそれぞれ行います。詳しくは市歴史博物館へ。

## 企画展の内容

企画展では、次のような展示資料を展示し、皆さんをお待ちしています。

### 近江名所図

瀬田唐橋や膳所城が描かれた六曲一双の屏風です。洗練された風雅なおもむきを感じさせる作品で、土佐派の作風が認められるとされています。唐橋に描かれている勸進僧をはじめ、商売をする人物や農耕に従事する人々が描かれており、江戸時代の風俗や農耕風景をしるのにも貴重な資料となる屏風です。

### 十六羅漢図（新知恩院蔵） 市指定文化財

南北朝時代に描かれた、優れた羅漢図です。中国では宋代に羅漢信仰が盛んになりますが、この時代の羅漢図は水墨画的に表現されることを特徴としています。本作品も、宋画の影響を受けたものといえます。



近江八景蒔絵硯箱

### 釈迦三尊像（善通寺蔵） 市指定文化財

平安時代になって法華信仰が盛んになりますと、多くの釈迦三尊像が制作されました。本作品は、高麗で描かれたか、もしくは宋・元または高麗から将来された作品を手本にしたものと考えられています。

### 石居廃寺出土品（個人蔵） 市指定文化財

仏教が国家守護という目的をもっていた古代では、都やその周辺に寺院が建立されました。天智天皇六年（六七）に大津京が置かれた大津でも、多くの白鳳期の寺院跡がみられます。石居廃寺もそのひとつで、推定金堂跡から十六個の礎石が発掘されるなど、かなり整った伽藍があったと想定されています。この廃寺から出土した埴仏・塑像片や泥塔を展示します。

### 近江八景蒔絵文台・硯箱

五十嵐香輔の作品です。記録では平安時代にはじまる蒔絵ですが、江戸時代に入ると、ますます贅と技巧を尽くした作品が登場します。本作品の文台は、松樹や雲を高蒔絵にして厚みを出し、沖に浮かぶ漁船や葦葦屋根などに小さな螺鈿を用いています。硯箱も同様の手法で描かれています。また、硯・墨・筆や刀子に金を使用して豪華さを演出しています。

### 膳所焼一重口水指

一重口の口造りをし、飴色の釉葉がかかる胴部は円筒形をし、竹に見立てた造りをしています。共箱の裏蓋に「河濱支流」の黒印があります。また、箱書には、「善五郎造」の墨書があり、永楽保全が天保十四年までに制作した作品です。

### 近江八景

初代歌川広重の画です。保永堂・栄久堂の合版であるこのシリーズは、数ある広重の近江八景のなかでも、



近江八景・石山秋月

もつとも優れた作品と評価されているものです。横大判に描かれた八景は、他の作品には見られない雄大さを感じさせます。

### 大津絵 青面金剛

青面金剛は、庚申信仰の本尊です。江戸時代には、庚申信仰が非常に流行したため、大津絵でも青面金剛の絵が数多く描かれました。大津絵の図柄では、日月、二童子、使いの鶏、山王の使いの猿、夜叉が描かれますが、二童子や夜叉は省略されることがありました。

## 宗家記録と朝鮮通信使展報告

平成四年二月十一日(火)から十六日(日)まで、本館企画展示室で大韓民国国史編纂委員会・朝日新聞社との共催で、「宗家記録と朝鮮通信使展―江戸時代の日朝交流―」を開催し、好評のうちに終幕を迎えました。

本展は、江戸時代において鎖国政策をとっていた徳川幕府が唯一、対等・正式な国交を持っていた国・朝鮮との善隣外交を示す資料である宗家記録を中心に日本国内の朝鮮通信使関係資料を加えた約一五〇点の資料を展示し、日朝友好の時代を明らかにしようとする



ものでした。会期中、県内ばかりではなく、県外からも多数の方々が来館され、観覧者数は、四、四七九名のほりまりました。

また、初日には、江戸時代と朝鮮通信使のテーマで泉澄一・上田正昭・李元植・仲尾宏の各先生方の講演会が開かれ、場内あふれんばかりの三六〇名もの聴講者を得ましたが、参加者全員が講師の魅了する説明に真剣に聞き入っていました。

## 収蔵品紹介⑧

### 浮きはえ鳥猟

琵琶湖の伝統的な猟法に、今では見られなくなったモチノキを使って鴨を捕る「浮きはえ鳥猟(ウキハエナガシモチ)」がありました。冬場、琵琶湖に飛来する鴨をモチノキの粘着力を利用して捕らえるもので、堅田では、特に盛んに行われていました。

ナガシモチは、トリモチ・葛藤の蔓とワクと呼ばれる簡単な木製道具が用意されます。トリモチには紀州産のものが良いとされ、湯中でこね、粘りがでて糸状になったものを約二〇〇mづつ束にします。藤蔓は、マッチ棒大の太さのものを同じく二〇〇m程つないだもので、これにトリモチを付けてワク(台形の木枠)に巻きつけます。これを十巻程つくり準備完了です。

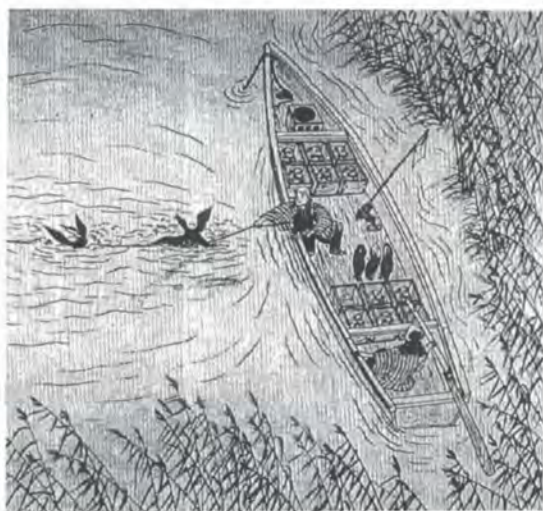
この猟は、早朝、鳥たちが寝込んで入る時、静かに仕掛けるもので、長年これに携わっていると、夕方鴨が南から北へ飛んでいく方向や高さ、その羽音等によってその日の罠がどこか分かったといい、それによって、明朝の猟場が決まりました。船には、先程のワク十巻程、ワクを掛ける木箱状の台と七輪が乗せられ、午前二時頃出港します。

鴨は、その種類によって湖上で集まって休んでいる場合と、湖岸の葦の間に休んでいる場合があります。前者の場合、七輪でモチナワを温めながら鴨の群を巻き囲むようにながしてゆきます。十巻を次々と流していくのですが、モチは温めると粘ってくるので米糠を手付けて流しました。波や風の力でモチナワが鴨に

接近していくのを待ち、休んでいる鴨にモチナワが触れると鴨は逃げられなくなり、頃合を見計らって、たくし上げていきます。風が強くと波の荒れた日は、モチナワが強く鴨に触れるため面白いように鴨が捕れました。猟期のなかで正月前に捕獲した鴨が最も高値で取引され、雄琴の料理屋等に卸され、名物カモスキとして賞味されました。

この猟の技術自身は単純ですが、それだけに長年の経験で蓄積してきた鴨に対する人々の知識が、猟を支えてきたともいえます。特色ある浮きはえ鳥猟も、戦後しばらくして禁止となり、現在では見ることができなくなりました。

本館の展示資料は、堅田漁業組合の御協力で、この猟の経験者である小西益夫さんに制作していただきました。(和田光生)



# 四月・五月の土曜講座

歴史博物館の「土曜講座」の四月・五月の日程は、次のとおりです。

## ◇「石造品の見方」1・2

(日時) 四月十八日・五月九日

午後二時～三時三〇分

(講師) 西川文雄(当館学芸員)

(内容) 大津市内にみられる石造美術品(石仏・石塔)をスライドと資料で紹介します。

(申込〆切) 四月八日(水)

◇「民俗学入門(春祭り)」

(日時) 五月二十三日・同月三〇日・六月六日

午後二時～三時三〇分

(講師) 和田光生(当館学芸員)

(内容) 春を彩る伝統的な祭りの様々な姿をスライドで紹介いたします。

(申込〆切) 五月十三日(水)

受講ご希望の方は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入し大津市歴史博物館へお申し込み下さい。定員はどの講座も一〇〇名で多数の場合は抽選します。

●ふるさと大津歴史教室のコース予定

一、「膳所焼と記念寺」

二、「田上の里に歴史をさぐる」

三、「雄琴の里に古社寺を訪ねて」

四、「小関越と大津別院」

五、「葛川溪谷に文化財を訪ねて」

以上の五コースを六月十三日から七月十一日までの毎週土曜日に開催します。詳しくは市歴史博物館へ。

## 博物館日記抄

平成3年12月  
平成4年2月

12月4日 石川陸郎東京国立文化財研究所主任研究官指導による保存環境調査

7日 土曜講座「民俗入門―正月行事―」開く

11日 重富滋子氏(根津美術館)来館

14日 土曜講座「民俗入門―なつかしのあめ細工屋さん―講師田村博氏

17日 下井輝久氏(京都新聞社滋賀本社)・岡角秀次氏来館

18日 水岡育子氏(富山美術館)・古賀健蔵氏(野村美術館)来館

21日 土曜講座「仏像の見方I」開く

特別開館(三日まで)、正月行事(大戸開き・鬼追い式)調査

8日 山本昇氏より「東海道スライド」寄贈

10日 NHK平岡敦氏来館、館内会議

11日 土曜講座「仏像の見方II」

14日 山田耕三郎参議院議員来館

17日 企画委員会開く。木曾義仲復権の会によるパネル展開催される(19日まで)

18日 土曜講座「考古資料の見方」開く。県博物館協議会研修会開かれる

24日 第5回博物館協議会を開催。河原純之氏(文化庁主任文化財調査官)・北川泰太郎氏(県文化財保護課)来館。県書初展開催される(28日まで)

2月1日 土曜講座「考古資料の見方II」開く

4日 石川陸郎氏(東文研主任研究官)による収

蔵庫内環境測定

6日 館内会議

11日 企画展「宗家記録と朝鮮通信使展―江戸時代の日朝交流―」開く。一時から上田正昭大阪女子大学学長ら四氏による講演会に三六〇人参加。田中健夫氏(東洋大学教授)・田代和生氏(慶応大学教授)・朴永錫韓国史編纂委員長・富岡隆夫氏(朝日新聞社文化企画局長)ら来館。一日に二〇〇人の観覧者を数える

15日 土曜講座「古文書にみる朝鮮通信使」開く。宇野宗佑衆議院議員・印牧信明氏(福井市史編さん室)来館

16日 金容雲氏(漢陽大学教授)・大久保昭教氏(天理大学学長)・上原恵美氏(県政策監)・渡辺武達氏(同志社大学教授)来館

22日 企画展閉幕。六日間で四四七九人を数えるふるさと作品展開かれる(26日まで)

28日 土曜講座「古文書にみる朝鮮通信使II」開く

29日 土曜講座「やきもの見方I」講師桑山俊道氏(県近代美術館)

28日 収蔵品収集審査会開催。小坂紀一郎(自治大学校校長)来館

29日 土曜講座「やきもの見方I」講師桑山俊道氏(県近代美術館)

博物館たより 第9号

発行日 平成四年三月十六日

編集所 大津市歴史博物館

発行所 大津市歴史博物館

電話(〇七七五)二二二二〇〇代